

平成30年度に係る業務の実績に関する評価結果  
国立大学法人九州工業大学

1 全体評価

九州工業大学は、開学以来の理念である「技術に堪能なる士君子」の養成を継承し、多様化・複雑化する社会的要請に応え、産業発展に資する人材を社会に輩出するとともに、学術の高度化と新技術の創出に貢献する工学系総合大学を目指している。第3期中期目標期間においては、海外大学等との連携を深めグローバル時代に相応しい大学の機能強化を行い、技術の革新や社会変化にも対応できる高度な専門力と豊かな教養を備えたグローバル・エンジニアを養成するとともに、研究力を高め地域及び我が国の産業の国際競争力を強化する新技術と新産業分野（イノベーション）の創出に寄与すること等を基本的な目標としている。

この目標の達成に向け、学長のリーダーシップの下、学生による学びの振り返りを基盤とした学修成果の可視化による学修の質向上、教育の質保証、及び教学マネジメントへの学修成果の可視化の活用などを目的として、「eポートフォリオによる学修成果の可視化コンソーシアム（参加機関：8大学）」を設立するなど、「法人の基本的な目標」に沿って計画的に取り組んでいることが認められる。

（「戦略性が高く意欲的な目標・計画」の取組状況について）

第3期中期目標期間における「戦略性が高く意欲的な目標・計画」について、平成30年度は主に以下の取組を実施し、法人の機能強化に向けて積極的に取り組んでいる。

- 強み・特色の伸長や社会ニーズに柔軟に対応できる体制の構築等を目的とした学部改組（工学部宇宙システム工学科・情報工学部5学科新設）を実施しているほか、「大学における工学系教育の在り方について（中間まとめ）」等を踏まえ、専門性を深化させながら副専門で知識を広げ、俯瞰的視野を養う教育課程の整備等を目的として、平成31年度に工学府博士前期課程の改組を行うことを決定している。（ユニット「教育機能強化による社会的な質保証システムのための全国的な教育拠点の形成」に関する取組）
- 海外教育研究拠点MSSCを活用し、ジョイント・リサーチ・プログラム2件（プトラ大学（マレーシア））を継続するとともに、合同シンポジウム（SAES）を実施しているほか、新たに台湾科技大学、徳島大学との合同シンポジウム（IFAT）も実施するとともに、新たな拠点候補としている台湾科技大学（台湾）と6件のジョイント・リサーチ・プログラムを実施している。（ユニット「連携の高度化による産学連携研究の活性化及び国際共同研究の強化」に関する取組）

## 2 項目別評価

## &lt;評価結果の概況&gt;

	特 筆	一定の 注目事項	順 調	おおむね 順調	遅れ	重大な 改善事項
(1) 業務運営の改善及び効率化			○			
(2) 財務内容の改善			○			
(3) 自己点検・評価及び情報提供			○			
(4) その他業務運営			○			

## I. 業務運営・財務内容等の状況

## (1) 業務運営の改善及び効率化に関する目標

①組織運営の改善 ②教育研究組織の見直し ③事務等の効率化・合理化

## 【評定】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載8事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、下記の状況等を総合的に勘案したことによる。

平成30年度の実績のうち、下記の事項について注目される。

## ○ 職員の知識・能力の向上

事務職員の人事制度に関して、平成31年度から新しい職位別評価基準に基づいた人事評価制度を開始することとしている。また、組織横断型のプロジェクトにより、全学的な課題解決を図るジョブチャレンジ事業には、平成30年度末時点で13プロジェクト、延べ137人が活動に参加している。

## (2) 財務内容の改善に関する目標

①外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加 ②経費の抑制

## 【評定】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載3事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

**(3) 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標**

①評価の充実 ②情報公開や情報発信等の推進

**【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる**

(理由) 年度計画の記載2事項全てが「年度計画を上回って実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

**(4) その他業務運営に関する重要目標**

①施設設備の整備・活用 ②安全管理 ③法令遵守 ④男女共同参画

**【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる**

(理由) 年度計画の記載10事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

## Ⅱ. 教育研究等の質の向上の状況

平成30年度の実績のうち、下記の事項について注目される。

### ○ 「eポートフォリオによる学修成果の可視化コンソーシアム」の設立

eポートフォリオの手法や技術を発展させ、学生による学びの振り返りを基盤とした学修成果の可視化による学修の質向上、教育の質保証、及び教学マネジメントへの学修成果の可視化の活用などを目的として、「eポートフォリオによる学修成果の可視化コンソーシアム（参加機関：8大学）」を平成31年3月に設立している。